2022年度

作曲コース作品発表演奏会
第1夜

2022年12月19日(月)開演 18:00 (開場 17:30)
洗足学園 前田ホール
主催：洗足学園音楽大学・大学院

⚠新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い
・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting ―ごあいさつ―

この度は作曲コース作品発表演奏会にお越しくださいまして、ありがとうございます。

作曲コースの学生は各自が求める音楽を自由に追求していますが、１年間の学修の成果として本コンサートで作品を発表します。

例年、古典の様式から現代の様式までさまざまな音楽様式がみられますが、その多様性は現代の音楽文化の多様性を映し出すとともに、本コンサート、そして作曲コースの魅力となっています。

2020年度は新型コロナの状況を鑑み、オーケストラによる発表を行うことができませんでしたが、昨年度よりオーケストラでの演奏を再開しました。

今年度もまだ一般のお客様に直接お聴きいただける環境ではございませんが、徐々に従来の音楽会の姿が戻ってきていることを実感するとともに、学生が生き生きと作曲に励んでいる姿を見られることが何より喜ばしく思います。

コロナ禍の中でオーケストラはもとより、合唱、室内楽、そして独奏作品の演奏に携わっていただきます指揮者や演奏者の方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、自らの創作を追求する作曲コース学生の成果をお楽しみください。

作曲コース　アカデミックプロデューサー
清水 昭夫

Program ―プログラム―

《オーケストラ作品》

駒井 城惟（編曲）: M.ラヴェル作曲《Sonatine》より第2楽章

山口 広夢 :《オーケストラのレストラン》

山本 雪美 :《前程万里》

五十嵐 太一 :《Primitive》

上平 奈々 :《Sous les arbres des érables》

指揮:松村 秀明 ／ 演奏:洗足学園音楽大学管弦楽団

―休憩―

《室内楽作品》

藤﨑 諒:《ピアノ即興曲 第1番》

Piano　三浦 琢磨(学4)

劉 鍵:《弦楽四重奏ための変奏曲》

Violin I　李 宣渽(リ ソンジェ)(学1)
Violin II　峯岸 陸(学1)
Viola　宮島 麻歩(学3)
Violoncello　佐々木 七穂(学2)

駒井 城惟 :《狂詩的舞曲》

Percussion　近藤 花音(院1)、高橋 芽生(院1)、吉野 萌(院1)、千保木 楽斗(学2)、竹内 夏美(学2)、吉田 創(学2)、両倉 愛斗(学1)

西川 竜弘 :《life》

Piano 1　原 彩子(学4)
Piano 2　三浦 琢磨(学4)
Contrabass　小泉 聡一朗(学3)

Program Notes ―曲目解説―

駒井 城惟（編曲）: M.ラヴェル作曲《Sonatine》より第2楽章

《ソナチネ》は、ソナチネ形式で書かれた3つの楽章からなる、ラヴェルのピアノ作品である。第1楽章で提示されるモティーフが、全楽章で展開されることで統一感を生み出し、見事ににまとめ上げられている作品である。

ソナチネとは、難易度を指しているのではなく、作品の様式を指している。古典様式を好んで用いていたラヴェルだが、《ソナチネ》も古典様式への傾斜がよく現れている作品である。

今回は3つの楽章から第2楽章を抜粋。古風な響きから導き出されるメヌエット風の音楽をお楽しみいただきたい。

＜作曲者プロフィール＞

山梨県出身。山梨県立北杜高等学校卒業。中高6年間吹奏楽部に所属し、打楽器を担当。また、高校、大学では編曲にも取り組んでおり、学内や学外の各所で演奏されている。作曲を伊藤康英、作曲理論を清水昭夫、松下倫士、打楽器を小川佳津子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

山口 広夢 :《オーケストラのレストラン》

オーケストラを、レストランのコース料理に見立てて。

開店前の緊張感がある低音の響きから、オーボエとファゴットのニ長調のハーモニーで入店から着席。弦楽器とティンパニの食前酒に始まり、フルートとクラリネットのアミューズ、オーボエとファゴットのダブルリード楽器によるさっぱりしたサラダの前菜に、ストリングスのピッチカートを添えて。

続けて、弦楽器が料理の中心ともいえる主食（ブレッド）を優雅に奏で、クラリネットの彩りのスープ、トリルや連符が濃厚さを奏でる。

ソロヴァイオリンをフューチャーした弦楽器が、先程とは異なる主食に。そしてメインディッシュとなる金管楽器によるサーロイングリルに打楽器のピューレを添えてより豪華に。

お酒が入り、5拍子になるほどオケ全員が派手に盛り上がる。

盛り上がりの後、ホルンが詩的なハーモニーを奏で、その後フルートとヴァイオリンのデザート盛り合わせ、華麗な締めのコーヒー。

そして、コースは幕を閉じる。楽器たちの奏でる音楽の美味しさを是非ともご堪能あれ。

＜作曲者プロフィール＞

東京都世田谷区出身。5歳からピアノ、高校2年から作曲に関わる。東邦音楽大学附属東邦高等学校ピアノ科卒業。作曲理論、和声学、音楽分析 を原田敬子、清水昭夫、木下淳雄、台信遼の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース 4 年在学中。

山本 雪美：《前程万里》

平安時代に書かれた物語『落窪物語』を読み作曲した曲です。

簡単に話をまとめると、現存する最古の継子いじめ物語で、いじめられていた姫君は女房らの助けを得て少将と結ばれ、継母に復讐を遂げるお話しです。落窪物語はいわば日本版『シンデレラ』とも言われています。また、写実的な人物描写が『源氏物語』に影響を与えたとも言われている作品です。

木管楽器のソロの受け渡しやトランペットソロ、1st ヴァイオリンと 2nd ヴァイオリンのソロの掛け合いがあるので、木管楽器や金管楽器、弦楽器が持つ特徴や音色を楽しみなが聴いていただけると嬉しいです。

＜作曲者プロフィール＞----------

大分県出身。学校法人別府大学明豊中学・高等学校普通科特別進学コースを卒業。大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース作曲分野を卒業。4歳よりエレクトーン、10歳よりドラムを始める。エレクトーンフェスティバル2016アンサンブル演奏部門九州ファイナルで銀賞、第45回大分県音楽コンクール作曲A部門で第2位。2016年～2018年、ヤマハ音楽振興会西日本エレクトーン演奏研究会に参加。2019年4月から2021年3月まで作曲と電子音響音楽を松宮圭太氏に師事。現在、作曲を柳川瑞季氏に、作曲理論を川崎真由子氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース4年在学中。

五十嵐 太一：《Primitive》

今回の作品は小説家、深沢七郎の作品「楢山節考」を題材に作曲した。主人公の老婆は70歳を迎えた冬に息子に背負われ楢山に捨て置かれる。死んで村の役に立てる事に喜びを感じている老婆と、そのことに対して息子の複雑な心情を描いた作品である。現代では考えられないような、苦しく、禍々しい心の動きに深く感銘を受け、それをオーケストラという形で表現した。

曲の題名である「Primitive」という単語は、原生的や原始的という意味を持つ。ここでいう「Primitive」は楢山節考でも描かれているような、自分たちにとって役に立たない、立たなくなってしまったものを排除する、といった無意識の中に存在する人間の本能的な部分の事を指す。

演奏をしてくださる指揮者の松村秀明先生、マスターオーケストラの皆さん、スタッフの方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

＜作曲者プロフィール＞----------

東京都出身。明星学園高等学校卒業。これまでに作曲を大竹くみ、原田愛の各氏に、ピアノを水野紀子、石田多紀乃の各氏に師事。現在、洗足音楽大学作曲コース4年在学中。

上平 奈々 :《Sous les arbres des érables》

タイトルの「sous les arbres des érables」とは、フランス語で「紅葉(楓)の木々の下で」という意味である。

冒頭、提示部の moderato のヴィオラとチェロの旋律は、長い夏が終わり、秋の訪れと共に、葉が徐々に赤く色づき始めていく様を描いた、叙情的な旋律となっている。

moderato から allegro に変化すると、冒頭の叙情的な旋律とは対照的に、まだ色づき始めていない青葉が強い日差しを浴びながら、ほのかに香る残暑を感じさせる明朗快活な旋律となっている。

展開部では徐々に怪しげな雲行きになり、嵐が訪れ、紅葉の木々も自然の脅威にのまれていく。弦、管、打楽器で豪雨を表現しているが、その後、雲の隙間から光が見え始め、木の葉の先からは陽の光に照らされた雨粒が一滴滴り落ち、またあの明朗快活な旋律へと戻っていく。

最後に冒頭の旋律を再現し、日に日に赤い色合いが増していき、紅葉の葉が完全に色づき、見頃になるまでまたしても展開していく。と同時に、これから訪れる長い冬を予感させる儚さも兼ね備えて盛大に終わる。

余談であるが、私は散歩をするのが好きだが、とりわけ秋の紅葉狩りの時期に街中を散策をするのが最もお気に入りである。何故なら、この時期の日本の木々の美しさは格別だからである。

この真っ赤に染め上がった木の葉から見える木漏れ日と、それとは対照的にもうじき散ってしまうという儚さに揺らぐ紅葉の葉の心情の対比を感じながらお聴きいただけると幸いである。

＜作曲者プロフィール＞----------

東京都出身。3歳からピアノを始め、クラシックピアノを青木肇、田中拓未、高橋裕希子、ジャズピアノを青柳誠、作曲を土屋洋一、久行敏彦、清水昭夫各氏に師事。クラシック音楽のみならず、ポップス、ジャズ、ラテン音楽、ミュージカル、映画音楽、吹奏楽、現代邦楽、民族音楽等の多岐に渡る音楽にも興味を持ち、それぞれの作曲法についても研究中。及び、歌曲、合唱曲などを作曲する際には言葉の音節とメロディーとの関連性にも気を配り、歌いやすく、言葉の響きの持つ美しさも重視した歌曲、合唱曲を作ることを信条としている。現在、洗足学園音楽大学作曲コース4年在学中。

藤﨑 諒:《ピアノ即興曲 第1番》

思えば今まで、ぼくはピアノだけの編成で曲を作ったことがなかったと気付いたのは今年の夏のことでした。その時は授業の課題で「1ページ以内のピアノ曲」という条件の中で作曲だったのですが、この編成にまた挑戦したいと思い、今回は即興曲という形で作ってみました。“即興曲”とは、実際に即興で作られたものではなく、作曲者の楽想を縛りなく展開した性格的小品の一種だそうです。ひらめいた楽想をぼくなりに自由に表現しようとした作品になります。

＜作曲者プロフィール＞----------

東京都出身。18 歳より打ち込みでの作曲を行い、創作活動を開始する。音楽家を目指し、東洋大学文学部を中退。作曲を小谷野謙一、ピアノを吉武雅子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

劉 鍵:《弦楽四重奏ための変奏曲》

この変奏曲はテーマ、9つの変奏、コーダで構成されています。第7と第9の変奏曲は私のお気に入りであり、とりわけ第9の変奏曲は、曲全体で最も私を感動させる部分です。シンプルなテーマで豊かな変奏を作ることを心がけました。

＜作曲者プロフィール＞----------

1998年、中国・広州生まれ。工商学院中退。17歳よりサクソフォンを学ぶ。2019年夏に来日し、作曲とピアノの本格的な勉強を始める。作曲を佐藤昌弘、和声を市川景之、ピアノを山本佳世子の諸氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

駒井 城惟 ：《狂詩的舞曲》

今回は、初めて打楽器を使って作曲しました。私も中学高校と6年間打楽器に触れており、とっても馴染み深い楽器です。そんな打楽器で演奏してもらう今作は、3つの舞曲の主題を自由な形式で展開していく狂詩曲です。

打楽器作品といえば、和風な和声やリズムを用いた作品や、キャッチーで馴染みやすいポップス調の作品、無調や特殊奏法が盛り込まれた、いわゆる"現代モノ"の作品がほとんどで、古典派やロマン派のスタイルの作品はかなり少ないように思います。そこで、今回は私が愛してやまないラヴェルのスタイルを用いて作曲しました。

また、ラヴェルの影響を受けて、舞曲という性格を取り入れたことは、言うまでもありません。

＜作曲者プロフィール＞----------

山梨県出身。山梨県立北杜高等学校卒業。中高6年間吹奏楽部に所属し、打楽器を担当。また、高校、大学では編曲にも取り組んでおり、学内や学外の各所で演奏されている。作曲を伊藤康英、作曲理論を清水昭夫、松下倫士、打楽器を小川佳津子の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

西川 竜弘 ：《life》

私の人生を振り返りながら作曲しました。ホールの真ん中で、目を閉じて聴くことをお勧めします。

＜作曲者プロフィール＞----------

神奈川県出身。高校に通う中で作曲に興味を持ち、パソコンでの作曲を始める。これまで作曲を清水昭夫、小谷野謙一、小宮知久の各氏に、ピアノを岡本暁子氏に師事。現在、洗足学園音楽大学作曲コース4年在学中。

Orchestra ―オーケストラ―

松村 秀明(指揮)

慶應義塾大学法学部卒業。大学在学中より洗足学園音楽大学附属指揮研究所にて学び、マスターコースを修了。
これまでに指揮を秋山和慶、河地良智、増井信貴、湯浅勇治の各氏、ピアノを馬場幸希江、クラリネットを四戸世紀の各氏に師事。
2006～2008年の「アフィニス夏の音楽祭」に指揮研究員として参加、2010年度は新日鉄文化財団により新設された指揮研究員のオーディションに合格し、紀尾井シンフォニエッタ東京で研鑽を積む。第11回アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクールで第3位入賞。
これまでにオーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団、京都市交響楽団、群馬交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、千葉交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、広島交響楽団、山形交響楽団、読売日本交響楽団を指揮。2012年にはイタリアのボルツァーノ＝トレント・ハイドン管弦楽団に招かれて3公演を指揮、好評を博す。
また、2019年の天皇陛下のご退位と新天皇ご即位にあたり、日本テレビによって制作された楽曲「新時代へ」（佐藤直紀作曲）の録音を指揮（演奏は読売日本交響楽団）。大きな話題となっている。
現在、洗足学園音楽大学非常勤講師。

Member ーメンバーー

Concertmaster	賴近 友莉奈	勝部 小夏			
1st Violin	宇根 由利子	椛田 翔允	長沢 明日香	兼子 萌花	島村 佳奈
	鈴木 光菜	鴇田 翔	松村 歩美	宮崎 莉子	小林 彩
2nd Violin	秋友 龍馬	久本 奈海	早川 萌音	佐々木 郁子	三谷 月菜
	鈴木 利々果	隈元 めいみ	武田 妃那	寺岡 彩菜	マノユ 瑠南
Viola	井上 海燦	宇津木 遥花	米倉 海陽	小林 真子	
	齋藤 亜花羽	宮島 麻歩	稲本 雄介	小玉 みどり	
Violoncello	沓掛 雛乃	佐々木 七穂	雪江 颯太	荒木 匠登*	大友 美侑*
	鈴木 岳*				
Contrabass	榎 さわ	小泉 聡一朗	福田 凪佐	安田 廉*	
Flute	梅崎 真綾	榊原 里來	園田 凪琉	辻 陽香	土持 志織
	町田 花音				
Oboe	宇治 愛	堀 友香	宮本 菜摘	奥野 彩	
Clarinet	磯﨑 優香	上條 里彩	中田 紫乃	成瀬 未涼	福永 愛華
	笠 歌純				
Bassoon	塩谷 花笑	加藤 彩音	上治 唯奏	鹿山 唯	平川 眞鈴
Horn	淺田 万結	佐藤 俊輝	半﨑 愛理	山口 亜希菜	梶田 茉朋
	金井 亮介				
Trumpet	芦川 大樹	植田 優花	江原 春香	佐々木 右京	髙木 美雨
	谷口 諒	檜山 沙南	細谷 侑生		
Trombone	小森 豊生	篠塚 裕太	神野 葵	長坪 海斗	平野 結梨香
Tuba	齊藤 徹也	吉田 怜生			
Percussion	大石 水紀	近藤 寛斗	佐藤 綾香	中田 実紅	林 拓海
	福本 奏音	横木 秀真	川﨑 友仁		

* 演奏補助要員

企画運営責任者　辻 功（本学教授・学部長補佐）

指導教員	瀬尾 宗利	松村 秀明	近藤 薫	中 一乃	沼田 園子
	安藤 裕子	羽川 真介	藤村 俊介	今野 京	矢内 陽子
	森 圭吾	辻 功	中舘 壮志	宇賀神 広宜	鈴木 一志
	水谷 上総	勝俣 泰	小林 祐治	久永 重明	古田 賢司
	池上 亘	門脇 賀智志	府川 雪野	渡邉 功	井手上 達
	幸西 秀彦	山田 徹			

アカデミックコーディネーター　岩岡 一志

助手　中村 日向子